

県高校野球
春季大会
第5日

高校野球の第76回徳島県春季大会第5日は29日、鳴門オロナミンC球場とJAアグリあなんスタジアムで2回戦残り4試合と準々決勝2試合が行われた。第1シードの鳴門は4-2で生光学園を下し、第2シードの鳴門渦潮は16-2で徳島科技を八回コールドで退けて、共に4強入りした。8強入りを

懸けた4試合は第3シードの徳島商が7-0で川島に、阿南光は13-0で脇町にそれぞれコールド勝ちを収めた。池田は6-5で小松島西に競り勝ち、名西は11-6で富岡西を破った。大会第6日の31日は、鳴門オロナミンC球場で準々決勝の残り2試合が行われる。(岩村純志、須見千次郎)

第5日の成績

鳴門	生光	徳島	阿南	徳島	池田
16	4	2	13	7	11
2	2	0	0	0	6
2	0	0	0	6	5



鳴門 継投で逃げ切る
生光学園 反撃及ばず

【評】鳴門が一回に挙げた4点を守り、競り勝った。生光学園は右腕川勝が140キロ後半の速球で押ししたが、四回に通時打で2点を返して以降は1安打に抑えられた。生光学園川勝(大八)が最速タイの147キロを

鮮やかな先制攻撃 鳴門

昨秋の県大会を制して四国大会でも4強入りした鳴門の剛腕・川勝の対決。注目の一戦は鮮やかな先制パンチを浴びせた鳴門に軍配が上がった。一回、先頭の桐川が右中間を破る痛烈なツーベース。無死満塁と好機を広げ、4番城田がフルカウントからレフト前に運び、2者を迎えた。今春からレギュラーをつかんだ桐川は「真ん中近くの直球。会心の当たりだった」とチームを勢い付ける一打に笑顔を見せた。勝負強さを示した城田は「ストレート狙いで

スライダーにうまく反応できた」と振り返った。投げては4投手のリレグを外すスライダーが有効だった」と話した。第1シードとして順当に勝ち上がり、城田主将は「チャレンジャーとして一戦必勝で戦う」というも通りの一言。慢心することなく準決勝に臨む。(岩村純志)

鳴門対生光学園 1回表 鳴門無死満塁 城田の左前打で2点を先制する

打点	安打	得点
桐川	1	0
渡邊	1	0
豊田	2	0
城田	4	1
佐藤	4	1
上原	3	1
手塚	3	1
山本	1	0
H	1	0
H	1	0
H	1	0
振球	8	7
球機	7	2
残	4	4

デジタル版に写真特集
徳島新聞デジタル版では紙面に未掲載の写真を開示しています。特集ページはQRコードかブラウザからアクセスしてください。



た。桐川の右中間一塁打を足場に無死満塁と攻め、城田の左前打で2点を先制。上原の中前打と手塚の押し出し四球でさらに2点を追加した。4投手の継投で2点を抑えた。生光学園川勝(大八)が最速タイの147キロを2度マークし、鳴門打線を4安打に抑えたものの敗戦。「直球が走っていたが、一回はピンチで粘れなかった。夏こそは鳴門にリベンジする」